

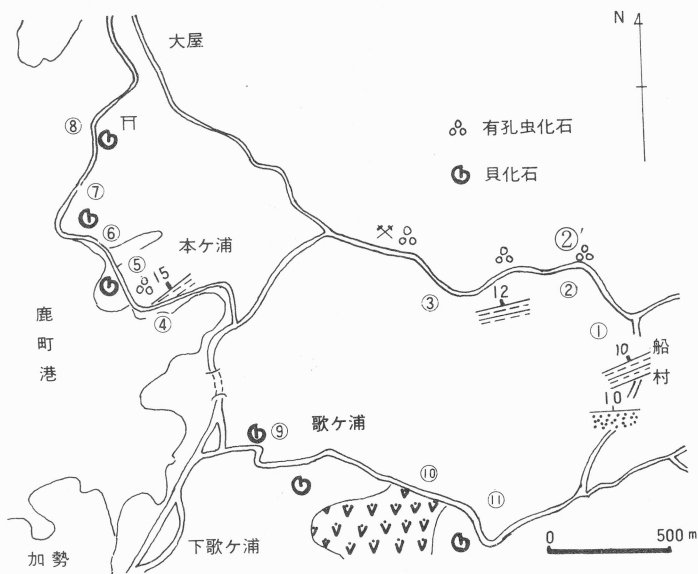
## 40. 鹿町の大屋層・加勢層

地域	北松浦郡鹿町町船ノ村一本ヶ浦一大屋
交通	西肥バス 船ノ村下車
地形図	佐世保 (1/50,000), 川内 (1/25,000)

船ノ村停留所で下車，本ヶ浦へ向って40mほど上り坂を歩くと図の①につく。ここは佐世保層群福井層中部の懸崖性灰白色中粒砂岩である。この砂岩は茶褐色の斑状をした特色のある厚いもので迷彩砂岩の別名がある。ここの露頭では高さ約6mほどであるが，江迎町高岩では60mもある厚い砂岩である。

②は峠まで50～60mのところ、①の砂岩直上につてくる含炭互層(20m)の3枚の薄い炭層をみることができる。②と峠の間では、福井層最上部の、小蛇目(本ヶ浦凝灰岩)とよばれる層厚2～7mの凝灰岩がくるはずであるが確認することができない。この凝灰岩の上の上部含炭互層は、ここでは薄く互層をしているのがみられる。峠の道路ぞいに、緑色の小さい岩片をふくむ加勢層の最下部のれき質砂岩があり、福井層とは不整合の関係にあるが、ここでははっきりとしない。また他の地区では数種類の化石が記載されているが、ここでは採集できない。

②は峠より4～5m下った急カーブの道路ぞいの崖である。ここでは、加勢層の暗灰色の含有孔虫けつ岩が風化して、特有のざらざらした細片になったのがみられる。この中より漸新世～中新世に海底で生息していた有孔虫の *Cyclammina tani*, 二枚貝の *Yoldia* sp., *Nucula* sp., *Acila* sp. などの化石が採集できる。化石は小型で、とくに有孔虫は小さいので、ルーペを利用して見るとよい。このけつ岩(厚さ20～30m)は②～③の間で上方にしないで砂岩層



歌ヶ浦大屋付近ルートマップ

をまじえて互層をなし、ついに灰白色細～中粒砂岩（かき砂岩層）となる。含有孔虫けつ岩は連続性があり、②～⑤にあらわれる小蛇目（本ヶ浦凝灰岩）とともによい鍵層である。

②より本ヶ浦に下って行く道路ぞいでは、けつ岩より砂岩に移行してゆく互層の状態が順を追ってみられる。とくに峠近くでは見出せなかった福井層中の鍵層の本ヶ浦凝灰岩や、含炭互層の炭層などが追跡できて、よい露頭である。ここで露出する本ヶ浦凝灰岩は、厚さ2 m程で、暗緑色を示すが風化すると灰白色となり、浮石と小粒の豆石を含有している。豆石は径1×1.5cm内外のだ円形で、顕微鏡的には方解石微晶の密集体である。

③を過ぎた本ヶ浦海岸近くの炭鉱は、かつて廃坑であったが、昭和46年に再開された。④は真珠養殖所に向いあった2 m余の崖で砂管のはいった砂岩の上に、含有孔虫けつ岩がのった露頭で、ここで

も有孔虫化石を発見できる。④を過ぎ、40～50mで小さな切通しにかかる。この切通の両側に加勢層上部のかき砂岩層がでてくる。化石の石灰質の殻が抜けていることもある。この化石層は、志佐川流域の横田田化石帯と同一である。厚がきの化石がよく目につく。その他に、*Cyclina*, *Yoldia*, *Pitar*, *Balanus* などの化石が含まれている。この切通しで小断層もみることができる。

⑥は入江を渡った正面の崖で、加勢層と大屋層とが接触する不整合面がみられる露頭である。かき砂岩の最上部はれき質砂岩で中に凝灰質をふくむ。大屋層の基底も凝灰質砂岩（厚さ1～2m）であり、大屋層全層についても、火山灰・軽石をふくんでいるので、堆積当時に火山活動があったものと推定される。⑥～⑦間は海岸に沿った道路である。ここに連続している露頭では、砂岩、泥岩、凝灰岩が見られ、とくに凝灰岩の発達が目立っている。この一帯は大屋層下部の「たにし貝化石層」で、とくに⑦付近は、化石の密集帯である。化石を含む単層は6枚ほど認められる。この層には「たにし」*Bellamyia kosasana* (Uejii), 「どぶ貝」*Lepiddodesma* sp. その他の化石を産する。この大屋層は化石と岩相からみると陸地内の浅い淡水性の地層で、火山活動の激しかった時代に堆積したものであろう。したがって加勢層より大屋層への移行の時期は、海退のときであり、しだいに浅海～陸と変化をたどって地層ができあがったことが推察できる。 (西村 進)